

# American Association on Intellectual and Developmental Disabilities 2016年次総会参加の報告

神山 努  
(情報・支援部)

**要旨**：本稿は、2016年6月6日から9日までにアメリカ合衆国ジョージア州アトランタで開催された、アメリカ知的・発達障害学会（American Association on Intellectual and Developmental Disabilities; AAIDD）の年次大会に参加し、本研究所において行われた知的障害特別支援学級の指導上の困難に関する全国調査に関してポスター発表したことについて報告した。年次大会の研究発表は、知的障害や発達障害に関する教育、福祉、医療、労働など、様々な領域に及んでいた。また、AAIDDが2016年に刊行した、知的障害のある子どもの支援ニーズの程度を評価する尺度である、子ども版知的障害支援尺度（Supports Intensity Scale - Children's Version; SIS-C）を得ることができたため、その概要を紹介した。我が国の今後の知的障害教育やインクルーシブ教育システムに関して、多くの示唆を得ることができた。今後もこのような国際会議に参加して、海外の特別支援教育に関する情報交流を引き続き行っていく必要がある。

**見出し語**：アメリカ知的・発達障害学会、知的障害教育、子ども版知的障害支援尺度

## I. はじめに

アメリカ知的・発達障害学会（American Association on Intellectual and Developmental Disabilities; AAIDD）は、1876年に設立されたアメリカ精神遅滞学会（American Association on Mental Retardation; AAMR）を前身とした、知的障害や発達障害がある人々とその専門家の、最も歴史があり、規模が大きな学術団体とされている。アメリカをはじめ世界55か国から5000人以上が会員となっている。AAIDDのミッションは、知的障害や発達障害がある人に関して、革新的政策、根拠がある研究、効果的な実践、普遍的な人権を促進すること、としている。このミッションを受けた目標を、知的障害や発達障害がある人々の専門家の力を向上させること、知的障害や発達障害がある人がインクルードされた社会を進めること、効果的で、適切にマネジメントされた、責任ある組織であることを維持すること、としている。学術雑誌は”American Journal on Intellectual and Developmental Disabilities (AJIDD)”, ”Intellectual and Developmental Disabilities”, ”Inclusion”を刊行しており、AJIDDでは例えば、知的障害がある人々や発達

障害がある人々の生理学的研究や、知的障害児の指導法に関する研究など、幅広い内容が掲載されている。

AAIDDは知的障害の概念を整理するなど(AAIDD, 2011)、知的障害に関する重要な知見を多く提供してきている。我が国では、特別支援学校（知的障害）において高等部を中心に、在籍児童生徒数が増加傾向にあり、知的障害のある子どもたちのための各教科の目標・内容を再整理することや、知的障害のある子どもたちの学齢期から成人期への円滑な移行のための支援をさらに検討することの必要性が指摘されている(中央教育審議会特別支援教育部会, 2016)。このような課題をふまえ、本稿では2016年のAAIDD年次総会に参加し、収集した情報について報告する。

## II. 2016年 American Association on Intellectual and Developmental Disabilities 年次総会

### 1. 年次総会の概要

2016年でAAIDDの年次総会は140回となり、6月6日から9日までの4日間、アメリカのジョージア

表1 2016年 AAIDD 年次総会の日程概要

	6 日	7 日	8 日	9 日
7 : 3 0	・ 会員会議 ・ リーダーフォーラム	・ ビジネス会議 ・ 展示開始 ・ 新会員会議 ・ オープニングセッション	・ ビジネスミーティング ・ 展示開始 ・ 全体セッション	・ ポストカンファレンスセッション
1 3 : 0 0	・ プレカンファレンスセッション	・ セッション	・ セッション	
1 6 : 3 0	・ 公開プレカンファレンスセッション	・ ポスターセッション	・ 公開セッション	

州アトランタにおいて開催された。日程概要を表1に示した。

1日目はプレカンファレンスセッションが開催され、以下の内容が行われた。

- ・ CDC and its Leadership in Understanding the Health Issues in IDD and ASD: アメリカ疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention) による、知的障害や自閉スペクトラム症がある人々の健康上の問題に関する調査研究の報告等がなされた。
- ・ Learning with Pathfinders and Their Partners : 知的障害のある人々のソーシャルインクルージョンを先駆的に探索した人々と、そのパートナーの経験について報告がなされた。
- ・ From Civil Rights to Disability Rights: Where are We? : 障害者の権利に関して、これまでの歴史を再検討した上で現状と課題を考察した。
- ・ End of Life Decisions for People with Intellectual Disability : 高齢知的障害者の終末期の意思決定の影響要因に関する研究等の報告がなされた。
- ・ Supported Decision Making: Research, Policy, Practice : 知的障害のある人々の意思決定支援に関する、研究、政策、実践についての報告がなされた。
- ・ Fostering Leadership in Research: Research Colloquium : 学生会員や経験年数の浅い実践者を対象とした、AAIDDの研究知見に関する報告がなされた。
- ・ Be The Change: The HCBS Rule, Transition Plan, and Best-practices and Opportunities for Stakeholder Advocacy : 在宅・地域社会ベースの医療会議 (home-and community-based care;HCBS) に関する州規模の取組の報告がなされた。

2日目の午前中はオープニングセッションが行われ、“Building Inclusive Communities”を表題として、地域におけるインクルーシブをテーマに、知的障害に関する研究者と知的障害がある当事者によるディスカッションが行われた。午後に研究発表セッション、夜にポスター発表が行われた。ポスター発表は、高齢、アセスメント、自閉スペクトラム症、教育、家族、健康、政策、生活の質、自己決定、ソーシャルインクルージョン、テクノロジー、就労などのテーマで、163件の発表があった。

研究発表セッションの内容は以下の通りであった。

- ・ Achieving meaningful community inclusion : 地域のインクルージョンに関する評価や、今後の課題について議論がなされた。
- ・ Attaining workforce stability and positive outcomes for people with IDD : 知的障害のある人々の就労支援について、研究発表や議論がなされた。
- ・ Unfolding system change efforts: What can we learn from change in process? : イリノイ州やオーストラリアにおける知的障害のある人々の支援システムの変化に関して報告や議論がなされた。
- ・ Effective transitions to employment : 知的障害のある人々の移行支援プログラムについて、その効果研究の報告と議論がなされた。
- ・ Unpacking the best predictors of quality of life : 知的障害のある人々の生活の質 (quality of life) の予測因子に関する研究の報告と議論がなされた。
- ・ Diving into what we know about US K-12 data and outcomes : 知的障害児の教育に関する研究について報告と議論がなされた。
- ・ Building competencies of medical professionals about

IDD：知的障害のある人々の健康上の問題に対する専門性向上について、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Achieving meaningful outcomes and quality measures**：知的障害のある人々の地域生活の質やサービスの質の評価方法に関する研究について、報告と議論がなされた。

- ・ **Building leadership at all levels**：知的障害のある人々や家族に対する支援について、リーダーシップを取るポジションについて議論がなされた。

- ・ **Creating the future of aging supports**：高齢知的障害者の支援に関する研究報告と議論がなされた。

- ・ **Promoting access to the general education curriculum for students with complex support needs**：知的障害のある子どもたちの通常教育カリキュラムへのアクセスについて研究報告と議論がなされた。

- ・ **Building inclusion in faith communities**：地域のインクルージョンについて研究報告と議論がなされた。

- ・ **Enhancing collaboration among professionals for higher quality supports**：知的障害のある人々の支援において専門家同士で協働することに関して研究報告と議論がなされた。

- ・ **Using technology to improve outcomes**：知的障害のある子どもへのアシスティブ・テクノロジーを活用した指導や、アシスティブ・テクノロジーを介した研修について、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Achieving a greater understanding of the needs and preferences of families and self-advocates**：知的障害のある人々の家族やセルフアドボカシーについて研究報告と議論がなされた。

- ・ **Promoting physical activity to achieve health outcomes**：知的障害のある人々の身体活動について研究報告と議論がなされた。

- ・ **Achieving a fully inclusive postsecondary education for people with IDD**：知的障害のある人々の中等後教育におけるインクルーシブ教育について、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Grasping meaning and experience in cross cultural environments**：様々な文化圏における知的障害のある人々の生活や課題について、研究報告と議論がなされた。

3日目の午前中のセッションでは、セルフアドボ

カシーをテーマに、知的障害に関する研究者と知的障害がある子どもの保護者によるディスカッションが行われた。その後は研究発表セッションが行われ、その内容は以下の通りであった。

- ・ **Introducing the SIS-A annual review protocol**：成人版知的障害支援尺度（Supports Intensity Scale - Adult Version; SIS-A）について研究報告と議論がなされた。

- ・ **Achieving participation of people with IDD in research**：知的障害のある人々が研究に参画することについて、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Changing the conversation with self-advocates**：知的障害のある人々のセルフアドボカシーについて研究報告と議論がなされた。

- ・ **Changing culture and practice regarding the sexuality of people with IDD**：知的障害のある人々の性的な問題について、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Shifting the paradigm in education on inclusion**：知的障害のある人々のインクルーシブ教育について研究報告と議論がなされた。

- ・ **Positive behavior supports curriculum: Innovations in achieving outcomes**：障害のある人々の適切な行動を伸ばし問題行動を減らすプログラムであるポジティブな行動支援（positive behavior supports）について、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Using research to inform policy and practice**：知的障害のある人々の政策研究について研究報告と議論がなされた。

- ・ **Update on the NTG**：知的障害のある人々におけるアルツハイマー病に関する全国的計画について、研究報告と議論がなされた。

- ・ **Understanding support roles in self-advocacy**：知的障害のある人々のセルフアドボカシーについて研究報告と議論がなされた。

- ・ **Adapting instruction: Lessons learned in Brazil and Ghana**：ブラジルとガーナにおける知的障害のある子どもへの教育について、研究報告と議論がなされた。

最終日はポストカンファレンスセッションが行われ、高齢となった知的障害者とその家族に対する支援や、知的障害者の自己決定に関して取り上げられた。

また、年次総会中には展示会が行われており、大学や研究機関、出版社からの研究成果に関する刊行物や教材、アセスメントの展示や販売のほか、知的障害がある人々の当事者団体による団体紹介や、作成した製品の販売の紹介が行われていた。



写真1 AAIDD 年次総会の会場の様子



写真2 AAIDD 年次総会の展示会の様子



写真3 AAIDD 年次総会ポスター発表会場

## 2. 日本の知的障害特別支援学級の調査研究に関するポスター発表

著者は、日本の知的障害特別支援学級が抱える課題に関する調査研究について（国立特別支援教育総合研究所，2014）、ポスター発表を行った。今回の発表では特に、調査に回答した知的障害特別支援学級担任に関する教員経験年数などの基本情報や、知的障害特別支援学級担任が指導上抱える課題や困難の、学級設置状況や教員経験年数から分析したデータについて報告した。

発表では、アメリカからの参加者をはじめ、韓国や中国などアジア諸国から等、様々な参加者と協議することができた。質問内容は、日本において知的障害のある子どもが教育を受けている場とその教育内容、知的障害特別支援学級担任の専門性向上への取組、国別で実態調査のデータを比較研究する必要などについてであった。

## Ⅲ. 子ども版知的障害支援尺度（Supports Intensity Scale - Children's Version）

AAIDD は2016年に、子ども版知的障害支援尺度（Supports Intensity Scale - Children's Version; SIS-C）を刊行しており、本年次総会でも様々な場面において紹介がなされた。以下では、SIS-C について紹介する。

SIS-C は知的障害のある子どもの支援ニーズの程度を測定するためのアセスメント尺度である。対象児をよく知る者2名以上に対する聞き取り調査により評価する。評価項目は基本情報のほかに、医療面と行動面に関する支援ニーズと、家庭生活、地域生活、学校への参加、学習、健康や安全、対人行動、セルフアドボカシーに関する必要な支援の状況、95項目から構成されており、各項目の支援ニーズを3件法、または5件法により評価する。評価結果をもとに、各領域における支援ニーズの程度や、全体的な支援ニーズの程度を評価する。

なお、成人版知的障害支援尺度（Supports Intensity Scale - Adult Version; SIS-A）も開発されており、SIS-A はアメリカのみならず、様々な国において、知的障害のある人々の支援ニーズの程度を評価して、

サービス支給を決定するために用いられている。また、SIS-A は和訳されており（アメリカ知的・発達障害協会，2008），我が国の知的障害のある人々に対するサービス支給決定のための評価に活用することの提案がなされている（日本知的障害者福祉協会，2011）。

表2 SIS-Cの構成

- ・ 基本情報
- ・ 医療面と行動面の支援ニーズ
- ・ 家庭生活に関する必要な支援の状況
- ・ 地域生活に関する必要な支援の状況
- ・ 学校への参加に関する必要な支援の状況
- ・ 学習に関する必要な支援の状況
- ・ 健康や安全に関する必要な支援の状況
- ・ 対人行動に関する必要な支援の状況
- ・ セルフアドボカシーに関する必要な支援の状況

#### IV. おわりに

今回の AAIDD 年次総会の参加から，米国を中心に様々な国における知的障害や発達障害がある人々に関する，教育や福祉など様々なテーマに関する研究や実践について情報を得ることができた。また，SIS-C のように知的障害のある子どもの支援に対して活用できるアセスメントツールの情報を得ることもできた。一方で研究発表からは，各国からの参加者と知的障害教育に関して情報収集でき，我が国の知的障害教育の現状や課題に関して考察する機会となった。AAIDD は学術雑誌や書籍の出版も多く行っており，今後も AAIDD に関して情報収集する必要があるといえる。

#### 引用文献

American Association on Intellectual and Developmental Disabilities (2011). *Intellectual Disability: Definition, Classification, and Systems of Supports (11<sup>th</sup> edition)*.

American Association on Intellectual and Developmental Disabilities (2012). 知的障害：定義，分類および支援体系 第11版（太田俊己・金

子健・原仁・他，共訳）. 日本発達障害福祉連盟. (American Association on Intellectual and Developmental Disabilities (2011). *Intellectual Disability: Definition, Classification, and Systems of Supports (11<sup>th</sup> edition)*.)

American Association on Intellectual and Developmental Disabilities (2016). *Supports Intensity Scale - Children's Version (SIS-C) User's Manual*.

American Association on Mental Retardation (2008). 知的障害のある人の支援尺度(SIS)：介護から支援への転換（渡辺勸持・古屋健・三谷嘉明，共訳）. 中央法規. (American Association on Mental Retardation (2004). *Supports Intensity Scale (SIS) User's Manual*)

中央教育審議会特別支援教育部会 (2016). 特別支援教育部会における審議の取りまとめ. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/063/sonota/\\_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377130\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/063/sonota/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377130_01.pdf) (アクセス日，2016-12-01)

国立特別支援教育総合研究所 (2014). 知的班の研究班活動による調査「知的障害特別支援学級（小・中）の担任が指導上抱える困難やその対応策に関する全国調査一研修，支援体制からの考察一」（平成24～25年度）調査報告書. <http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/8994/20140407-171029.pdf> (アクセス日，2016-12-01)

日本知的障害者福祉協会 (2011). 厚生労働省平成22年度障害者総合福祉推進事業 支給決定プロセスに係る海外の実態に関する調査—新たな支給決定プロセスの提案—研究報告書. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/cyousajigyoku/dl/seikabutsu6-1.pdf> (アクセス日，2016-12-01)